

2021年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
37305	生活支援技術演習 Care technique general practice	木村典子 兵藤翠	○	専門	1	選択	1.2年後期

科目の概要

根拠ある介護を提供していくために、介護過程の展開の仕方について学んでいきます。今まで、学んだ知識(介護の対象、生活援助技術など)に基づき、問題解決技法を使って、介護の展開方法を学んでいきます。事例を用いながら、介護の根拠となる知識・技術、尊厳を保持し、その人なりの自立について、生活との関連で考えていきます。介護職員初任者研修課程の資格の取得、将来、介護の現場で働いていくために、必要となる知識・技能の修得を目指していきます。
★介護施設での介護福祉士、ケアマネージャとして経験をもとに、実際の介護現場の状況、家族が抱える問題を伝え、それを解決するために行ってきた方策を示すことで、学生への介護過程の展開をより現実的に捉えられるように演習をすすめる。

学修内容	到達目標
① 介護過程の構成要素となる知識を学ぶ。 ② 事例をもとに、情報を整理し、アセスメントについて学ぶ。 ③ 事例をアセスメントし、実践可能な介護計画を立案の仕方を学ぶ。 ④ 模擬高齢者で、計画の一部を実践し、実践の結果から、評価の仕方に学ぶ。 ⑤ 事例の介護過程の展開をグループワークと自己学習で深める。	① 介護の専門性と介護過程の関係について説明することができる。 ② 介護過程のサイクルについて説明することができる。 ③ 今まで、学習した科目(対象の理解、生活援助技術など)の知識を活用して、介護過程のサイクルにのって援助計画を立てることができる。 ④ 実践可能な援助計画を立てて、模擬高齢者で実践して、継続可能であるか評価をする。 ⑤ グループワークと自己学習を通して、事例の介護について深めて、説明することができる。

学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例
前に踏み出す力	主体性	介護過程を展開するのに必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。
	働きかけ力	
	実行力	目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。
考え抜く力	課題発見力	主観的情報、客観的情報を連動させて、課題を考えることができる。
	計画力	
	創造力	事例の問題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。
	柔軟性	
	状況把握力	
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。
	ストレスコントロール力	

テキスト及び参考文献

テキスト：長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 三巻
参考文献：なし

他科目との関連、資格との関連

資格との関連：介護職員初任者研修
介護総合実習で受け持つ利用者の介護過程の展開に、つながっていきます。

学修上の助言	受講生とのルール
介護過程の展開では、今まで習ってきた様々な知識を使う必要があります。介護過程の展開の、段階をグループワークで行ってきます。グループワークの内容をさらに自分なりにまとめ、発表して、介護過程の展開について深めていきます。事例は4つあります。計画的に進めていかないと、課題が増えていきます。	この授業では計画性が大切になります。主体的に学習計画を立てて行っていく必要があります。 ●介護職員初任者の資格を取得するには、評価が「良」以上あること。

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標			各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント	
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	30	①	✓		・介護過程の必要性、段階について、適切に理解しているかを評価する。 ポイント： ① 専門職の行う介護としての責務と介護過程 ② 介護の専門性について ③ 介護過程の構成要素 ④ 実施可能な介護計画が立案できる ・授業で学習した内容の理解度を確認する。	
				②				
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
	平常評価	小テスト	10	①	✓		・毎回の小テストの点数を平均して判定する。 ①授業内容を理解できているか確認する。 ②穴埋め問題と簡単な分析を中心に出題する。 ・出題範囲は、各時点までの授業で学習した内容とする。	
				②	✓			
				③	✓			
				④				
				⑤				
		レポート	20	①	✓		・5事例に関する事前学習、シート(アセスメントシート、イメージ画、生活課題、優先順位表、計画)提出（4点×5回＝20点）	
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓		・第4回～15回の内容について、理解度を確認するために成果発表を行う。 グループ討議のメモ用紙（3点）、プレゼンテーションの成果（7点） 援助技術の実践(10点) ・2分間の発表、ランダムに発表者を指定する。 ・模擬高齢者への実践は全員実施する ・注目すべき理由、表現の仕方、説明の明瞭さを評価する。	
				②	✓			
				③	✓			
				④	✓			
				⑤				
学修行動	社会人基礎力（学修態度）	10	①	✓		(主体性) ・介護過程を履修するのに必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できている。 (実行力) ・目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができている。 (課題発見力) ・主観的情報、客観的情報を連動させて、課題を考えることができる。 (創造力) ・事例の問題を考えるとき、自己の固定概念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 (発信力) ・グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できている。 (傾聴力) ・グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。		
			②	✓				
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
総合評価割合			100					

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
秀 1. 事例に対しての、実践可能な援助計画が立案を知識にもとづいて工夫し、説明でき、模擬高齢者に、安心・安全に実践できる。 2. わかりやすく、資料を作成して、発表することができる。他者に事前にアドバイスを得て、さらに付け加えをして行うことができる。 3. 授業の到達目標から自身の習得しなくてはいけない知識を理解し、自己学習ノートをわかりやすくまとめ、活用できる。教科書、文献など、様々な資料を使って、計画、援助技術が実践できる。 4. 他のメンバーへ、アドバイスができる。 5. 筆記試験が90%以上の正解率である。 優 上記の1, 2ができていて、総合評価で80%以上である。	良 1. 介護過程サイクルが説明でき、事例に対して、教科書の内容に照らして、援助計画を立案できる。 2. 上記の内容について、資料を作成して、発表することができる。 3. 自己学習ノートをまとめることができる。 総合評価で70%以上である 可 1. 2の内容が助言のもと、資料を作成でき、発表することができた。 総合評価で60%以上である。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	介護過程の基礎的理解 1 介護過程サイクル	講義 グループワーク・ 演習 (木村、兵藤)	介護過程サイクルについて説明をできる	(復習) 講義ノート内容を復習する。 (予習) 失明のAさんの援助計画をまとめる。	60	主体性 傾聴力 規律性
2	介護過程の基礎的理解 2 小テスト(介護過程サイクル)情報収集、アセスメント	小テストと解説 講義・演習 発表、実技(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	介護過程の情報収集・アセスメントについて説明できる。	(復習) 講義ノート内容を復習する。 (予習) 視力障害のある人への生活援助の実践	60	主体性 実行力 創造力 発信力
3	介護過程の基礎的理解 3 小テスト(情報収集、アセスメント+計画立案) 生活課題、計画立案	小テストと解説 講義・演習 SNSを使つての双方向型授業 木村、兵藤)	介護過程の計画立案を説明できる。	(復習) 講義ノート内容を復習する。 (予習) 事例を行うのに、必要な項目の事前学習をする。	60	主体性 傾聴力 規律性
4	事例 訪問介護を利用する高齢者 情報収集、アセスメント	グループワーク 発表(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	介護過程の情報収集、アセスメントの結果、生活課題を明確にできる。	(復習) グループで行った情報収集・アセスメントを自分の資料にまとめる。	60	主体性 発信力 規律性
5	事例 訪問介護を利用する高齢者 計画立案、発表	プレゼンテーション グループワーク 発表(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	生活課題に対して、長期目標・短期目標・援助計画と結び付けて計画立案できる。	(復習) グループで話し合った生活課題の計画を立てる。 (予習) 事例を行うのに、必要な項目の事前学習(認知症)をする。	60	主体性 発信力 規律性
6	事例 認知症の展開1 小テスト(介護過程全般と認知症) 認知症の理解 認知症の疫学、認知介護の現状	プレゼンテーション 発表(認知症について)(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 3事例説明 木村、兵藤)	教科書の内容をもとに、認知症について疾患～ケアまでを説明できる。 事例を進めるために、学習計画をグループと個人で作成できる。	(復習) 認知症の理解について不足分をノートにまとめる。 (予習) 事例で、分からなかったことを調べてくる。	60	主体性 課題発見力 発信力 規律性
7	事例 認知症の展開 情報収集、アセスメント 認知症の方の生活支援、レクリエーション、非薬物療法	プレゼンテーション グループワーク 発表(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	情報収集、アセスメントの結果、生活課題を明確にできる。	(復習) グループで行った情報収集・アセスメントを自分の資料にまとめる。 (予習) 計画を立案する。	60	主体性 課題発見力 発信力 規律性
8	事例 認知症の展開 計画立案、発表 認知症高齢者とのコミュニケーション(模擬高齢者への対応)	グループワーク プレゼンテーション コミュニケーション技術の実践 (口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	個人学習したものをもとにグループで計画を立案し、発表する。発事前に資料、原稿を作成し、発表できる。	(復習) グループで話し合った生活課題の計画を立てる。 (予習) 事例を行うのに、事前学習を認知症にならって、脳梗塞について、自ら考えて行う。	60	主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	事例 脳梗塞 脳梗塞の理解 小テスト	小テストと解説 プレゼンテーション (脳梗塞について)(口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 3事例説明 木村、兵藤)	教科書の内容をもとに、脳梗塞について疾患～ケアまでを説明できる。	(復習) 脳梗塞の理解で不足しているところをノートにまとめる。 (予習) 事例で、分からなかったことを調べてくる。	60	主体性 発信力 規律性
10	事例 脳梗塞 老夫婦二人暮らしの事例 情報収集・アセスメント	プレゼンテーション グループワーク 発表 (口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	情報収集、アセスメントの結果、生活課題を明確にできる。	(復習) グループで行った情報収集・アセスメントを自分の資料にまとめる。 (予習) 生活課題に対しての原因をノートにまとめる。老老介護の問題をデータをもとに考察する。	60	主体性 創造力 発信力 規律性
11	事例 脳梗塞 老夫婦二人暮らしの事例 計画立案	プレゼンテーション グループワーク 発表 (口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	グループで介護計画を立案できる。	(復習) グループで話し合った生活課題の計画を立てる。具体的に模擬高齢者援助が実施できるようにする。 (予習) 模擬患者に対しての援助を実施の練習をする。	60	主体性 発信力 規律性
12	事例 脳梗塞 老夫婦二人暮らしの事例 発表、模擬高齢者で実施	グループワーク プレゼンテーション 排泄技術、水分を促す技術の実践 映像を使つての介護者での介護技術の説明 主介護者へ安心を促すためのコミュニケーション技術 木村、兵藤)	計画を発表し、援助を実施する。前回の発表の課題を踏まえて工夫をして、事前に資料、原稿を作成し、発表できる。 技術が計画をもとに行うことができる。	(復習)自分が立案した計画で不足しているところを修正する。 (予習)事例で、分からなかったことを調べてくる。 今まで行ってきた同様の流れで行っていくため、自ら学習を進める。 (水分を促す援助、脳梗塞の再発と水分の関係)	60	主体性 課題発見力 創造力 発信力 規律性
13	事例 脳梗塞、心不全、パーキンソン症候群 一人暮らしの事例 情報収集・アセスメント	プレゼンテーション グループワーク 発表 (口頭と紙面で発表についてコメントを返す) 木村、兵藤)	グループで介護過程の情報収集を行っている。 課題として、何を行ってこないといけないか明確にできる。	(復習)自分が考えた生活課題で不足しているところを修正する。 (予習) 今まで行ってきた同様の流れで行っていくため、自ら学習を進める。(脳梗塞とADL)(言語障害)	60	主体性 発信力 規律性
14	事例 脳梗塞 心不全、パーキンソン症候群 一人暮らしの事例 計画立案	プレゼンテーション グループワーク 発表 (口頭と紙面で発表についてコメントを返す)(木村、兵藤)	グループで介護過程のアセスメントをする。 課題として、何を行ってこないといけないか明確にできる。	(復習)自分が立案した計画で不足しているところを修正する。 (予習) 予習で行ってきた同様の流れで行っていくため、自ら学習を進める(計画立案)	60	主体性 創造力 発信力 規律性
15	事例 脳梗塞心不全、パーキンソン症候群 一人暮らしの事例 発表、模擬高齢者で実施	グループワーク プレゼンテーション 歩行を安定させるための技術の実践 生活意欲を高めるためのコミュニケーション技術 木村、兵藤)	事例をもとにグループで計画を立案し、発表する。前回の発表の課題を踏まえて工夫をして、事前に資料、原稿を作成し、発表できる。 技術が計画をもとに行うことができる。	(復習) 試験に向けてノートを整理する。	60	主体性 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力